

ずいそう

石鎚 大好き

村上 正典



長年の公務員生活に別れを告げ、我が故郷松山に移り住み、石鎚神社の氏子として、西日本最高峰（加賀白山 以西）であり、山岳信仰の山として日本7霊山にも数えられる、日本百名山の名峰「石鎚山」へ。

7月1日のお山開き大祭参拝はもちろん、毎年数回は登っているが、今年は6年目のお山開きが来ようとしている。

去年は、年に300日は濃霧だと言われるのが信じられないくらい最高の天気であった。7月1日のお山開き神事の日がこのように「快晴」なのは、14年ぶりであると、頂上社の宮司さんが言っておられた。去年は7月1日のお山開き大祭を含め7・9・10月と7回参拝し、毎回天候良く「天狗岳：標高1982m」に連続7回登頂することが出来た。また、10月は、紅葉の美しさに魅せられ週3回、足腰の疲れ回復前にまた登り下りの登頂。飽きもせず年寄りが、よく行くよなあ？とは妻の弁。

石鎚山の登山ルートは、西条から石鎚神社成就社を経て北東側から上る表参道ルート、松山・高知方面から石鎚スカイライン経由、南東側の土小屋から上るルート。その他、本格登山者向けのルートもあるが、村上君はいつも土小屋ルートから天狗岳を目指している。

「お上りさんかね」「お下りさんかね」…上り下りの挨拶として、特にお山開き大祭時には、それは賑やかである。熊避けの鈴の音チリン、チリンと響き、一步一步と。

さて、10月の7回目のお山へ。

土小屋遥拝殿にお参り後、土小屋（標高1492m）～弥山石鎚神社奥宮頂上社（標高1974m）。その距離4.6km、標高差500m余り。年寄り村上君の所要時間は、上り2時間30分～3時間、下りは2時間～2時



石鎚山頂

間30分。ゆっくり、急がず、のんびりと…。

瓶ヶ森、大森山（標高1897m, 1399m）を右手に紅葉の登山道を30分も歩くと、いつも休息所としているベンチが見えてきた。目の前が明るく開け、左前方には天狗岳、さすが石の鎚の岩山である。この場所は、弥山までで1, 2を争うビューポイントでもある。

一息の後、表参道成就社ルートとの合流地点、二の鎖小屋へと、手入れの行届いた木の栈道を越えて進む。この辺りは、崩れ落ちた大石も多く、足腰が疲れてはいるもののなぜか何時も早足になる。最初の難所、合流地点手前の急な登坂を越え鳥居を潜ると、二の鎖元小屋に到着である。大休息の後、小屋の先から登山道の分かれ道までが第2の難所である。直進すれば、かの有名な石鎚の大鎖（2箇所鎖場がある）、右手に行けば栈道（通称迂回路）である。栈道は、数年前に大々的に改良され、驚くほど良くなっている。紅葉真っ盛りの時期でもあり、2及び3の鎖場（65m, 68m）を迂回し頂上社へ。石鎚神社 奥宮 頂上社は、H15年6月に開山し5月から11月3日まで神主が常駐しておられ、朝夕の礼拝はどなたでも参列できると聞いている。

山頂（弥山）1974mで奥宮 頂上社にお参り後、弥山の岩場を小鎖で下り、馬背の手前のいつもの岩上で手作りのにぎり飯をと店びらきしていると、お～い写真のじゃまになるから消えてくれと、弥山から紅葉の天狗をねらうカメラマンが大声で叫ぶ。仕方なく死角の場所へ移動する。馬背の峰を越え、北東側の切り立った岩壁を気にしつつ、最後の難所である急傾斜の岩場を上ると、小さな祠があり、終着の天狗岳到達である。祠に寄りかかるように、天狗岳1982mと書かれた小板がある。写真のように登頂時には何時もこの小板と共に記念撮影。天狗からは、九州・中国の山々までも遠望できると期待したが、今回は雲海に阻まれ目にする事は出来なかった。

石鎚山の1000種を超える植物の中には、石鎚山固有種も多く、珍しい高山植物や花の名所としても知られている。大自然の素晴らしさを満喫出来、就学前の幼児から中高年の方々にも身近なハイキングコースです。お子さんやお孫さんを連れて、ぜひチャレンジを。

今年は、二桁安打で行こう、と春よ来い来い早く来い。

—むらかみ まさのり 豊国工業(株) 四国営業所 技監室 参事—